

## 「第 23 回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：平成29年6月9日（金） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市役所3階会議室B
- 3 出席者：高橋弘二座長、鈴木副座長、内船構成員、桐谷構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、奈良谷構成員、野崎構成員、森構成員、吉田構成員、米田構成員（計11名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木主査、山中、鈴木）
- 5 傍聴者：なし

### ◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 報告
  - (1) 企画提案型市民協働モデル事業について
  - (2) 平成29年度教員向け環境学習講座について
- 3 議題
  - (1) 平成29年度よこすかECO通信の内容について
- 4 その他
  - (1) 事務連絡

### ◆ 報告 1 企画提案型市民協働モデル事業について

〔事務局からの説明〕

平成29年度の企画提案型モデル事業として、NPO法人三浦半島生物多様性保全の「学区の自然を再発見、小学生向けの環境体験授業」が採択され、先般、事業実施に向けた検討を進めていく実行委員会を設置した。

事業の具体的な内容としては、市内の各学区の自然の特徴などをまとめた「横須賀 身近な自然を知るマップ」を作成したNPO法人三浦半島生物多様性保全が講師となり、このマップを参考に小学校の子どもたちに学区内の自然を知ってもらう体験事業を行うもので、参加校を募集して実施していく。

### 高橋座長

このモデル事業は、今回資料として配られた「環境教育・環境学習ラインナップ」の中の一つになるのではないかと思います。資料には書かれていないがいかがか。

### 事務局（山中）

このラインナップは4月の校長会で配付したもので、本日は参考としてお配りした。

4月の配付時点ではモデル事業の詳細等が決まっていなかったため、ラインナップには記載がないが、来年度以降もモデル事業を続けることになれば、記載することになる。

### 野崎構成員

ラインナップ①～⑤の区分の「環境体験事業」の中に新しく加わることになるのか。これをご覧になる先生はそのような区分けとして考えていただくといいのか。

## 事務局（山中）

来年度のラインナップについてはこの場で確定的なことは言えないが、このモデル事業を来年度も行っていく場合はラインナップの1つになり、小学校の先生が見る段階で、子どもたちに教えていきたいものの中で必要なメニューになってくると考えている。

環境体験事業は、「猿島」や「観音崎」など学区に限っていないが、モデル事業が具体的にどのように活用されていくかは今後次第だと思うが、このモデル事業は小学校付近の身近な自然環境を学ぶということなので、先生が選択する際の考え方で分かれてくると思っている。

## 事務局（松尾課長）

ラインナップの区分としては、モデル事業の内容が「①よこすか環境教室～環境教育指導者等派遣事業～」とも似た内容にもなっているし、「環境教育教材、資料など」の中の「環境学習プログラム」にも関連してくる。

今回は市民協働のモデル事業として3年間の期間となっているが、3年間の終わった時点で区分についてはその時点で考えたい。

現時点では「環境体験事業」の「①よこすか環境教室～環境教育指導者等派遣事業～」に区分されると考えている。

## 高橋正明構成員

新しく始める事業ということだが、非常に興味深い内容になっている。学区の中を調べた結果をどこか報告に載せ、例えば、自然が非常に多く残っている学区、都市の中でなかなか自然が見つからない学区など結果をフィードバックしながら、今後どうするかという位置付けもできると思うが、どのように進めていくのか。

## 事務局（松尾課長）

既に「身近な自然を知るマップ」を作っていて、東京湾側は自然が少ないと言われているが、実際に歩くと色々なものがあったり、昔はこんなものがあつたという内容になってくるかと思う。

モデル事業を何校かで行い、その中で子どもたちが発見したことをまとめていきたい。

まとめ方としては「量」と「質」の視点があると思っている。「量」がたくさんあつたり、「量」は少ないが興味深い「質」があつたりすると思うので、最終的にはこうした視点でもまとめていきたい。また、ステップアップしていく方法もあるかもしれないので、3年間で終わりではなく、4年後、5年後に繋がることも考えていきたい。

## 高橋座長

今、課長から説明があつたように現況把握は既にできていて、まとまったものがあるということで良いか。

## 事務局（山中）

そのとおりである。

### 高橋座長

今度は子どもたちが実際に見て発見してもらおう。環境の現況把握よりもこのようなことを行ったという報告が必要だと思う。

### 事務局（松尾課長）

基本的には1年ごとに整理する。モデル事業としての最終的なまとめは3年後になる。

### 鈴木副座長

何校を受け入れる予定か。また、実施は平日か休日か。

### 事務局（山中）

予算の関係もあり5校を目安としているが、学校により実施するクラス規模が異なるのであくまで目安である。

学校の希望にもよるが、基本的には学校の授業、特に総合的な学習の時間がメインになると思うが、平日の授業として実施するものと考えている。

### 高橋座長

補足すると、このモデル事業は市民協働推進事業に企画提案したもので、そこでの予算になっている。

### 事務局（松尾課長）

予算としては、1年度当たり20万円が上限となっている。

### 高橋座長

実行委員会での話では、夏休みに私たちの横須賀「水と環境」研究会が市内の川で、野崎構成員の団体「自然ふれあい楽校」が湘南国際村で、実施する計画もあるが、この資料では読み取れないが。

### 事務局（山中）

今回の資料は、モデル事業の周知用の資料となっている。

### 事務局（松尾課長）

今回の資料は、学区内の環境を子どもたちに見ていただくモデル事業がメインとなっていて、資料1に掲載しているように、基本的にはNPO法人三浦半島生物多様性保全が講師となって実施していくことになる。

今、座長が言われたのは、この他にもいくつかの環境活動団体が一緒になって、子どもたちに体験を中心とした事業を行っているという趣旨だと思うが、今回のモデル事業においても、これらの事業とも協力・連携しながら3年間実施していくことを考えている。

## ◆報告2 平成29年度教員向け環境学習講座について

〔事務局からの説明〕

前回のこの会議でご紹介いただいた「日産わくわくエコスクール」について、講座の実施に向けて日産自動車(株)、教育委員会と協議を行い、平成29年度教師向け環境学習講座として開催する方向性が固まった。

日産自動車(株)では、「教育への支援」、「環境への配慮」、「人道支援」を社会貢献活動の重点分野として取り組んでいるが、学校の社会見学等として日産追浜工場へは殆どの学校が見学に行っているものの、「出張環境授業」は浸透していないことから、今回は学校での授業に取り入れる参考として、小学校の先生方に出張環境講座「日産わくわくエコスクール」を体験していただく。場所は当初夏島小学校を予定していたが、日産自動車追浜工場ゲストホールに決定した。また、教育研究所から講座を案内していただくこととなった。

### 高橋座長

桐谷構成員から何か補足があるか。

### 桐谷構成員

今回、話をいただき大変有り難く思っている。

以前にも話したが、市内の小学生は5年生が日産自動車追浜工場に来て製造ラインの見学を行っているので、工場のラインがどうなっているかは分かるが、そこで日産自動車がどのような環境活動を社会に対して行っているかまでは話ができていない。

我々にも反省があり、授業に活かしていただけるような形で、日産自動車の環境活動がどのようなものなのか、CSR(企業の社会的責任)から入り、その活動の1つとして「日産わくわくエコスクール」があるので、その話をきちんとしていきたい。

また、追浜工場では環境に対して色々取り組んでいるが、会社の中の環境活動は結構大変な部分がある。普段、見せられない場所も話で紹介することにより、弊社の工場を皆さんに、より身近に感じていただけたらと思っている。今、プログラムを考えている。

### 森構成員

「よこすかECO通信」第25号に掲載されている「リサイクルプラザ“アイクル”で体験学習 日産わくわくエコスクール」と同じ内容になるのか。

### 桐谷構成員

別の内容になっている。アイクルでの体験学習はリサイクルに特化した子ども向けのプログラムだが、今回の講座は教員向けなので、「わくわくエコスクール」を題材にはするが大人向けに弊社での環境活動などをきちんと解説していきたいと思っている。

### 高橋座長

定員はどのくらいなのか。

### 事務局(鈴木主査)

「わくわくエコスクール」は小学校5、6年生を対象としているものの、教育委員会との調整で、講座の募集対象は市内の全小・中学校、養護学校の先生30人を予定している。

## ◆議題1 平成29年度「よこすかECO通信」の内容について

〔事務局からの説明〕

「よこすかECO通信」は平成23年6月に創刊した。

市内で行われる環境関連事業等（イベント・講座等）の情報を紹介する情報誌として年4回、各3,500部を発行し、市関連施設での配架や学校への配付を行っている。

今般、「よこすかECO通信」第25号の案を作成したので、その内容について、ご意見を伺いたい。

### 高橋座長

これまでの「よこすかECO通信」のテーマ一覧の資料があり、今回の第25号の内容について、特に一面（表紙）が非常に重要とのことで、それも含めたご意見、ご提案をお願いしたい。

### 桐谷構成員

「よこすかECO通信」は行政センターなどで配架していると思うが、一面にインパクトがあった方が手に取っていただきやすいのではないかと。

印象として文字よりも絵などの方が惹きつけやすく、今年度4回発行予定とすると、テーマにちなんだ絵など見せられるものがあると良い。

### 高橋座長

第25号の一面は文字が多い感じがする。

### 事務局（鈴木）

確かに文字が多くなってしまっている。

### 高橋座長

職員室前の掲示板に貼ってある学校もあるが、学校には何部送っているのか。

### 事務局（鈴木）

小学校へは各8部、中学校へは各5部送っている。

### 高橋座長

吉田構成員、学校ではいかがか。

### 吉田構成員

学校では各教員には配られていると思う。

また、市民の方が手にしようとした時には、例えば、昔と比較したグラフなどがあると「何のグラフだろう？」などと惹きつける手立てがあると手に取ってみようと思うのではないかと。

教員はとりあえず目を通すが、次のアクションとして多くの市民の方がまず手に取るにはインパクトのあるグラフ、絵、写真があると良いのではないかと。

保護者も見ていての方がいて、「先生、これに行ってみよう」などの話を聞くこともある。見ていての方がいるのは事実なので、それを増やしていくには惹きつける手立てが必要だと思う。

### 高橋正明構成員

今の話に近いが、一面を惹きつけるということでは目に惹きつける内容が1つ。どのような惹きつけ方か、また、別にテーマをどうするか、ということが独立してあると思う。

魅力的なテーマを選ぶこととその内容をいかに見せるかの両面での作戦が大事である。テーマは個別に選ぶのか、または方針を決めてその中から選んでいくのか、1年を通してどうしていくのか、ストーリーや戦略を決めてテーマを選ぶ。

次に、そのテーマをいかに見せるかの工夫をして一面を飾る進め方があると思う。

テーマは大きいものから小さいものまで色々あると思うので、年4回の発行であれば、例えば、世界の動きなどの啓蒙活動的なもので、パリ協定をどうするかなどがあっても良いと思う。

一方で、身近な横須賀のこと、そして次に自分でやってみるエコの体験などテーマを定めて題材を選ぶ進め方もあるかと思う。

### 高橋座長

今の内容に関係するが、「よこすかE C O通信」の対象はどう考えているのか。

### 事務局（鈴木）

一面は小学生向きというよりは一般市民向けの内容となっていて、二面は環境学習講座など子ども向けになっている。一般の人でも小学生にも分かる内容が望ましいと考えている。

### 高橋座長

対象は広くなるということで、全てが理解できるということではなく、内容的に難しく読めないところもあるが、子どもたちが読めるところもあるということか。

### 高橋直人構成員

これを見て、子どもが申し込むのは難しいと思う。保護者や学校の先生が子どもにこのような催しがあるよと教えることを考えると大人向けに作成した方が良いと思う。

大人向けと言っても年代が色々あると思うが、地域で新聞を作るときなどは、文字が多いとまず見ないと言われるので、絵や写真で人を惹きつけたり、タイトルにインパクトをつけたりする。

例えば、「6月は環境月間です」などの文章的なタイトルではなく、これを見て、手に取りたくなるようなタイトルが必要かと思う。

スカリンも大切だが何かインパクトのある写真を使用することも効果がある。写真と言っても白黒では難しいので、絵になってくるかと思う。

### 米田構成員

構成を変えるだけでも見せる化ができるので、その点も工夫する必要があると思う。

かなりインパクトが違ってくると思う。

#### 高橋座長

文字を見ると小学生向けではない。大人に読んでもらい子どもに伝える感じがする。

#### 鈴木構成員

2頁目の「環境学習講座のおしらせ」は、大人対象、子どもや子どもと父兄同伴が対象との分けがある、うちの子どものどこかに連れて行こうとしたときに、全て見なくても済むと思うので、分かりやすい表現にさせていただくと良い。

#### 奈良谷構成員

見せ方の問題だが、市役所にも広報紙を担当している部署があるかと思う。

知見があると思うので相談したり、記者クラブに意見を伺ったりするのも良いのではないか。

#### 高橋直人構成員

庁内印刷の際に、白紙に青インクで印刷するだけでも目立つので、そのような工夫をしても良いと思う。

#### 高橋座長

4頁目は毎回博物館にご協力いただき、我々は非常に興味を持って読んでいる頁であるが、内船構成員、いかがか。

#### 内船構成員

一面のテーマを年度始めに事務局から提示いただくので、なるだけそれに合わせたものにしたいと思いながら執筆している。

自然系の学芸員が4名いて年間4回の発行なので、1回ずつ持ち回りで担当できるようにしていて、今回は植物の担当が執筆し、七夕が近いのでタケとササを扱っている。

博物館では発行ギリギリに書き上げているので、一面となるとご迷惑をかけることになるかと思うが、図鑑の一部を一面に使用するのであれば良いかと思う。

#### 桐谷構成員

季節感があって良いと思う。

#### 事務局（鈴木主査）

一面のテーマがいかに手に取ってもらえるか、また、レイアウトについてご意見をいただいたが、事務局としても、読んでもらうには、テーマ設定、文字、イラストなど一面を書くに当たってはテーマに苦勞している面がある。

7年目に入ると以前のテーマが出てきたりするので、幅広く皆さんの見識の中で、目新しいテーマなどご意見をいただけたらと思っている。

今年度の後の3回のテーマを案として載せてはいるが、桐谷構成員からも季節的なものという話をいただいたが、環境に絡むような紙面作り、また、先程のパリ協定の話など

トピックになるようなテーマの材料がありましたら、キーワードだけでもいただけたらと  
思っている。次号以降の発行には時間があるので、今後も随時ご意見をいただきたい。

#### 高橋座長

色々意見が出たので、できることは反映し、今後の参考にさせていただきたい。  
議題は以上だが、他に何かあるか。

#### 高橋直人構成員

資料1に関連して、教育委員会でも教育振興基本計画を策定している。

社会教育の分野において、学校の先生を支援するために、地域の色々な資源や人材とそれを必要としている先生方とをつなぐコーディネート機能を進めていく行動計画があるが、環境教育に関してはまさに事務局がコーディネーターを担っていると思う。

環境教育も社会教育の一環であるので、まさしくここにいる皆さんが地域の人材や資源であり、その方たちを学校に派遣する事務局はコーディネーターの役割だと思うので、教育進行基本計画とも連携していけたらよいと感じた。

講演会のチラシについて、「よこすかECO通信」第25号に掲載した講演会「南極大陸生命の不思議」を開催する。人権を考える講演会ではあるが、南極地域観測隊の方が話をするので、環境教育の部分が強いと思い情報提供としてチラシを配らせていただいた。

もう1点、第57回社会教育研究全国集会（神奈川集会）のご案内について、各都道府県を会場にこの研究集会を実施しているが、その中で環境教育の分科会があり、「社会に開かれた教育課程」が変える学校と地域の環境学習と題して、県内でのフィールドワークと討論を踏まえて、分科会が開かれるので紹介させていただいた。博物館の分科会では、今年は自然分野の学芸員に横須賀の博物館について話をさせていただく。

#### 高橋座長

対象は一般的なのか。

#### 高橋直人構成員

一般を対象としているので誰でも参加できるが、任意団体が開催するので有料となる。

#### 高橋座長

タイトルを見ると学校の先生が対象かと思う。

#### 高橋直人構成員

小中学校より、大学の先生が多く来られるが、一般の方も色々な方が参加される。

#### 野崎構成員

先生方が対象かと思ったが、内容は一般市民にとっても面白そうところが色々ある。表に世話人とあるが、講師なのか。

#### 高橋直人構成員

講師ではなく、分科会を企画、運営し、受付の事務をしたりする方が世話人である。



#### 野崎構成員

討議とあるが、講義というよりはディスカッションなのか。

#### 高橋直人構成員

そのとおりで、幾つかの報告がありそれを踏まえて参加者間で意見交換をするのが基本となっている。

#### 高橋座長

第57回ということ随分前から行っているのか。全国集会の神奈川県開催なのか。神奈川県だけでも行っていなかったか。学校の先生の集会だったのか。

#### 高橋直人構成員

毎年1回、持ち回りで開催している。社会教育の集会・大会にも色々な全国大会があり、県レベルの大会もある。この集会は、学校の先生が対象ということでもなく、分科会にもよると思うが、公民館の分科会では公民館の職員が多く、博物館では学芸員や大学の先生が多く参加している。

#### 高橋座長

その他、皆さんから何かあるか。なければ事務局から何かあるか。

#### ◆その他

##### 事務局（鈴木主査）

事務局から事務連絡として、

1点目は、本日の議題について追加のご意見、特に「ECO通信」のテーマについて、期限は設けないので随時事務局あてにご意見があればお願いしたい。

2点目は、席上配付資料としてご案内した「平成29年度 環境教育・環境学習ラインナップ」、「よこすかのかんきょう」は皆さんの環境活動に活用していただきたい。

3点目は、第4期構成員の任期が今年7月末までのため、本日が今期最後の会議となるが、ネットワーク会議への次期構成員としての参加について、後日、事務局から改めてお願いをするのでよろしくお願いしたい。

第4期構成員での最後の会議となるので、事務局、環境企画課長からお礼を申し上げる。

##### 事務局（松尾課長）

[事務局 環境企画課長からお礼の挨拶]

##### 事務局（鈴木主査）

座長からも一言お願いしたい。

#### 高橋座長

[高座長から挨拶]

**事務局（鈴木主査）**

それでは、第23回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。